第5回人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）運営委員会

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会　合同委員会

議事録

　日時：2020年2月18日(火)11:00～12:30

　場所：日本学術会議　6階A会議室

出席（34 学協会）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 法と心理学会 | ジェンダー史学会 | 日本哲学会 |
| 日本法社会学会 | 国際ジェンダー学会 | 日本認知心理学会 |
| 日本社会学会 | 日本社会福祉学会 | 日本アメリカ文学会 |
| 日本西洋古典学会 | 日本教育社会学会 | 科学技術社会論学会 |
| 日本経営学会 | 日本社会教育学会 | 化学史学会 |
| 日本文化人類学会 | 日本人口学会 | 日本年金学会 |
| 日本労働法学会 | 日本ﾌｪﾐﾆｽﾄ経済学会 | 日本教育学会 |
| 東南アジア学会 | 日本心理学会 | 日本ｽﾎﾟｰﾂとｼﾞｪﾝﾀﾞｰ学会 |
| 国際服飾学会 | 日本英語学会 | 日本宗教学会 |
| 日本教育心理学会 | 沖縄女性研究者の会 | 総合女性史学会 |
| 歴史学研究会 | 日本ジェンダー学会 | 関西社会学会 |
| ジェンダー法学会 |  |  |

委任状（21学協会）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 日本村落研究学会 | 日本教育行政学会 | 日本言語学会 |
| 日本倫理学会 | 日本社会心理学会 | 日本医学哲学・倫理学会 |
| 日本語学会 | 日本水産工学会 | 日本法哲学会 |
| 経済理論学会 | 日本民俗学会 | 北東アジア学会 |
| 社会言語科学会 | 日本基督教学会 | 日本労務学会 |
| 社会情報学会 | アメリカ学会 | 日本認知・行動療法学会 |
| 日本健康心理学会 | 日本犯罪社会学会 | 日本発達心理学会 |

議題：

＜報告事項＞

1. 前回ギース運営委員会（第4回）の確認 （資料 **報告１**）

　前回議事録の確認がなされた。

2. ギース新役員・総合ジェンダー分科会委員と新委員会委員の紹介（資料 **報告２**）

　青野篤子ギース委員長より資料のとおり報告があった。

　＊資料訂正　監事→幹事

　　　　　　稲葉昭英（日本哲学会）→稲葉昭英（日本社会学会）添付資料を参照のこと

3. ギース執行部，総合ジェンダー分科会からの報告   
・加盟学協会（資料　**報告３−１**）

　事務局長より2020年2月12日現在68学協会の加盟があることが報告された。

・分担金納入状況

　事務局長より現在20学協会から分担金の納入があることが報告された。

・ギースアウトリーチ委員会報告（資料　**報告３ー２**）

　小島優子アウトリーチ委員長より、ギースのアウトリーチ活動について資料のとおり報告があった。

　＊資料訂正　添付ファイルの資料を参照のこと

・「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）報告書の完成について

　総合ジェンダー分科会委員長（永瀬伸子委員）より報告があった。

・広報活動について

　大串尚代ギース広報委員長より、広報活動の現状報告と、今後の学協会相互の情報交換について提案があった。

4. ギース加盟学協会からの報告

　沖縄女性研究者の会より機関紙の発行について報告があった。

5. その他　合同シンポジウムについて（資料　**チラシ**）

　運営委員会終了後、日本学術会議講堂にて行われるギース・総合ジェンダー分科会共催による合同シンポジウムについて説明があった。

＜審議事項＞

１. ギース年度計画について（資料　**審議**１）

　ギース委員長よりギースの今後の活動について以下の提案がなされた。

　・幹事学会の持ち回り制度の具体化。

　・アウトリーチ活動の活性化

　・グッドプラクティスに関する情報交換

　・次回の実態調査に向けての計画

　上記の点について承認された。

2.「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）」のデータの扱いについて

アンケート調査および分析を取りまとめた永瀬伸子委員よりアンケートのデータの取扱について説明および提案がなされた。

・かなり詳しい情報を取得しているため、個人情報の秘匿には注意が必要

・同時に、今回のアンケート分析以外にも活用できうる良いデータが揃っている

・データの扱いに関しては今後、ギース役員会・調査研究委員会、総合ジェンダー分科会、および調査企画分析委員会にて継続審議としていくことを提案する。

継続審議とすることが承認された。

3. ギース組織体制と幹事学会制について（総合ジェンダー分科会との連携含む）  
・幹事学会持ち回り制の提案（資料　**審議３−１**）  
・組織図（資料 **審議３−２**）

　幹事学会制について意見をつのったところ、21学協会より意見が寄せられた。そのうち賛成と考えられる学協会11、条件付きで賛成する学協会10学協会であった。したがって、幹事学会制を進めていく方向で進めていく。

＜事前によせられた意見およびギース役員会からの説明＞

・学協会の負担がどれくらいになるのかがわかりにくい。そうでないと回答ができない。

・事務的な作業の面、旅費の負担についてはどうか

→総会にあたる運営委員会の準備・運営が中心になる。毎年1回開催しているシンポジウムは、今後総合ジェンダー分科会との役割分担を明確にする。物理的に集まる会議は運営委員会のみで、役員との連絡や審議についてはメールで行っている。そのため、運営委員会以外の旅費はほとんど心配する必要はない。

・幹事学会・副幹事学会の任期について。副幹事学会を2年務め、幹事学会を1年務めるとなると、合計3年になってしまうため、任期が長いのではないか。

→ギース役員会でもこのことが話し合われ、副幹事を1年、幹事学会1年が適当ではないかということで調整している。

・幹事学会の選出方法を明確にしてほしい。機械的に選出しないでほしい。

→それぞれの学協会の意見を尊重しつつ、数年先まであらかじめ決めておき、持続可能な運営を目指したい。できれば10年先くらいまでの幹事学会を決めておきたい。理系の場合は委員長・副委員長を決めてから、その人が所蔵する学会を幹事学会にしている。学会を先に選ぶか、人を先に選ぶのかについては、弾力的に話し合いながら幹事学会を選んでいきたい。

・事務局担当者の選び方を明確にするべきではないか。

　→事務局担当についても、学協会の意見を尊重しつつ、選出したい。仕事の内容を考えると1年ごとの変更ではなく、3年単位くらいがいいのではないかと思われる。

以上のことを踏まえて、ギース役員会としては、各学協会の状況に配慮しながら10月には幹事学会制を開始したいという希望を持っていることが説明された。

幹事学会制をスタートさせるということについて承認された。

投票　33学協会

賛成22（＋委任状21）

保留11

反対0

　なお、幹事学会制の導入に向けて、各学協会においても男女共同参画推進のための委員会やワーキング・グループの設置を進めていただきたいことが役員より提案された。

4. 運営委員会（総会に当たるもの）の開催方法（時期・回数等）について

13学協会のうち9学協会は現状のままでよい、4学協会は年に1回がよいという意見があった。これを踏まえギース役員会でも検討し、総合ジェンダー分科会と調整した結果、以下の最終案をきめた。

9月にギース運営委員会をギース主体で現執行部により開催する。

10月に新しい執行部体制がスタート

２月〜3月　午前　総合ジェンダー分科会にギースの役員が参加する合同分科会・ギース単独の運営委員会・総合ジェンダー単独の委員会を開催

　　　　　 午後　ギースと総合ジェンダー分科会の共催シンポジウムを開催する

以上の開催方法が承認された。

1. その他

・第一回大規模アンケートの調査報告書をもとに、ギース独自の活動として政府や機関に要望を出すことも可能性として考えられる。第6期の科学技術基本計画策定にむけて、理系の方は要望書を作って内閣府に提出するとのこと。ギースも協力したこの大規模アンケートの調査報告書を踏まえて、なにかアクションを起こすことも可能ではないかと考えている。可能ならば要望書を作成・提出することにしたい。

投票34学協会

賛成　29団体

要望書の作成・提出が承認された。